

AIR BAG MODULE

Patent Number: JP10244899

Publication date: 1998-09-14

Inventor(s): HANAWA AKISHI;; SAKAMOTO TOSHIHIRO

Applicant(s): AUTOLIV JAPAN KK

Requested Patent: JP10244899

Application Number: JP19970065589 19970305

Priority Number(s):

IPC Classification: B60R21/20; B62D1/04

EC Classification:

Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a driver seat air bag device whose horn operating structure is simple in structure, costs low, and can surely actuate a horn.

SOLUTION: In an air bag module 1 in which a bag cover 14 is fixed to a substantially rectangular retainer 2 provided with an air bag and a gas generator 8, the retainer 2 is provided with a bottom plate part 3, which is provided with a gas generator mounting hole in the center, and vertical wall parts 12 on respective side parts, and projection pieces 13, which are protruded outward respectively, are formed in the vertical wall part 12 or in the bottom plate part 3. In the bag cover 14, leg piece parts 22 surrounding the vertical wall parts 12 in the retainer 2 are formed on the back face side, and in the leg piece parts 22, locking holes, to which the projection pieces 13 are inserted so as to lock the retainer 2, are formed in the positions matching with the projection pieces 13 in the retainer 2. In each of the corner parts of the bottom plate part 3 in the retainer 2, a supporting piece 24, which is brought into contact with the lower end face of the leg piece part 22 in the bag cover 14 so as to support the lower end face, is formed.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-244899

(43) 公開日 平成10年(1998)9月14日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I
B 60 R 21/20
B 62 D 1/04

(21)出願番号 特願平9-65589

(22)出願日 平成9年(1997)3月5日

(71)出願人 398020806

オートリブ・ジャパン株式会社
横浜市港北区新横浜2-15-13

(72)発明者 堀 晃史
茨城県新治郡千代田町上稻吉向原1764-1
センサー・テクノロジー株式会社筑波事
業所内

(72)発明者 坂本 敏宏
茨城県新治郡千代田町上稻吉向原1764-1
センサー・テクノロジー株式会社筑波事
業所内

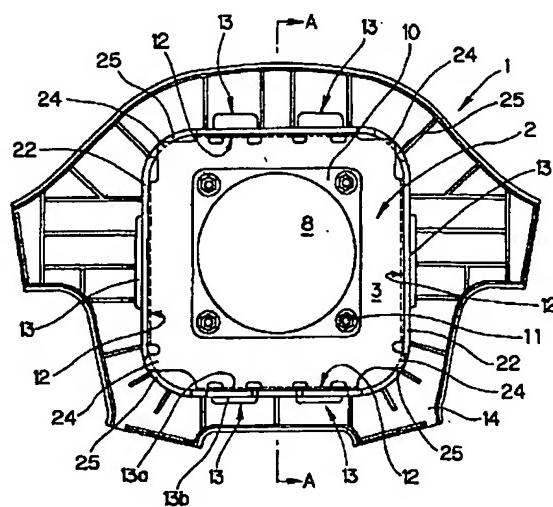
(74)代理人 泰理士 莫野 浩一

(54) 【発明の名称】 エアバッグモジュール

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 簡単な構造で安価なホーン作動構造とともに、確実にホーンを作動することができる運転席用エアバッグ装置を提供する。

【解決手段】 エアバッグ4とガス発生器8とを装着した略矩形のリテナ2にバッグカバー14を固着してなるエアバッグモジュール1において、リテナ2は、中央にガス発生器取付孔を有する底板部3と各辺部の縦壁部12とを有し、且つ縦壁部12又は底板部3に夫々外側に突出した突起片13が形成されており、バッグカバー14には、裏面側にリテナ2の縦壁部12を囲繞するように脚片部22が形成され、脚片部22の前記リテナ2の突起片13に対応する位置に、突起片13が挿入されてリテナ2を係止する係止孔15が形成されており、リテナ2の底板部3の各コーナー部には、バッグカバーの脚片部22の下端面に当接して下端面を支持する支持片24が形成されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 エアバッグ(4)とガス発生器(8)とを装着した略矩形のリテーナ(2)にバッグカバー(14)を固着してなるエアバッグモジュール(1)において、

前記リテーナ(2)は、中央にガス発生器取付孔を有する底板部(3)と各辺部の縦壁部(12)とを有し、且つ該縦壁部(12)又は底板部(3)に夫々外側に突出した突起片(13)が形成されており、

前記バッグカバー(14)には、裏面側に前記リテーナ(2)の縦壁部(12)を囲繞するように脚片部(22)が形成され、該脚片部(22)の前記リテーナ(2)の前記突起片(13)に対応する位置に、該突起片(13)が挿入されてリテーナ(2)を係止する係止孔(15)が形成されており、

前記リテーナ(2)の底板部(3)の各コーナー部には、前記バッグカバーの脚片部(22)の下端面に当接して該下端面を支持する支持片(24)が形成されている事を特徴とするエアバッグモジュール。

【請求項2】 前記リテーナ(2)とバッグカバー(14)とは、リベットを用いることなく前記突起片(13)と前記支持片(24)のみによって係止されている請求項1に記載のエアバッグモジュール。

【請求項3】 前記突起片(13)は、前記バッグカバーをリテーナに係止する水平平板部(13a)と、その先端に形成された前記係止孔(15)から突出してエアバッグ展開時に前記バッグカバーの脚片部(22)が外側に膨張するのを抑止するための、前記水平平板部(13a)よりも広幅の先端部(13b)とからなる略T字形状をしてなる請求項2に記載のエアバッグモジュール。

【請求項4】 前記バッグカバーの脚片部(22)に形成された係止孔(15)は、前記突起片(13)の広幅先端部(13b)の幅よりも僅かに広幅の大開口部(15b)と、これに連続して前記突起片の広幅先端部(13b)の幅よりも狭く且つ水平平板部より若干幅広の小開口部(15a)とからなる凸字形状をしており、前記突起片(13)の水平平板部(13a)で、前記バッグカバーの係止孔(15)の小開口部(15a)に係止し、前記広幅の先端部(15b)は前記係止孔(15)から突出してエアバッグ展開時に外側からバッグカバーの脚片部の膨張を規制するようにしてなる請求項3に記載のエアバッグモジュール。

【請求項5】 前記リテーナの縦壁部(12)に形成された突起片(13)は、水平平板部(13a)と、その先端に形成された該平板部から屈曲して設けられた先端部(13c)とからなり、前記水平平板部(13a)でバッグカバーの前記係止孔(15)に係止し、前記屈曲して形成された先端部(13c)は前記係止孔(15)から突出してエアバッグ展開時に外側からバッグカバーの脚片部の膨張を規制するようにしてなる請求項2に記

載のエアバッグモジュール。

【請求項6】 前記突起片(13)を、前記リテーナ(2)の底板部(3)に形成してなる請求項2乃至5のいずれかに記載のエアバッグモジュール。

【請求項7】 前記突起片(13)を、前記リテーナ(2)の縦壁部(12)の先端部に形成してなる請求項2乃至5のいずれかに記載のエアバッグモジュール。

【請求項8】 前記突起片(13)を、前記リテーナ(2)の底板部(3)と縦壁部(12)の先端部に形成されており且つ該リテーナ(2)の対向する辺の同一箇所に形成されている請求項2乃至7のいずれかに記載のエアバッグモジュール。

【請求項9】 前記バッグカバー(14)の同一脚片部(22)に形成された複数の係止孔(15)の各位置の該脚片部における上下方向の高さを異ならしめ、エアバッグ展開時の該脚片部に作用する応力が同一平面に集中しない様にしてなる請求項2乃至6のいずれかに記載のエアバッグモジュール。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、車両の衝突事故による衝撃から運転者の安全を確保するためのエアバッグ装置に関し、特に、エアバッグ取付用のリテーナを表面側から被覆するバッグカバーのリテーナへの取付けを容易にしたりベットレスエアバッグモジュールに関するものである。

【0002】

【従来の技術】エアバッグ装置においては、リテーナと称する取付板に折り畳み状態のエアバッグが取り付けられ、このエアバッグの上面側をバッグカバーによって被覆している。このバッグカバーは、エアバッグと同様にリテーナに固着されると共に、エアバッグ展開時に破断する脆弱部が設けられている。更に、このリテーナにはガス発生器も取り付けられており、車両衝突時には、このガス発生器が高圧ガスを噴出してエアバッグを急速に展開させる様に構成されている。

【0003】この種のエアバッグ装置は、図8に示す様に、折り畳まれたエアバッグ4の開口縁部に、リテーナリング5とボルト11により、リテーナ2の底板部3と、エアバッグ4の開口から上半部を嵌入したガス発生器8のフランジ10とを一体的に固定している。この様に一体的に固定されたエアバッグのユニットに対し、その上方からバッグカバー14を装着し、リテーナ2のリベット孔とバッグカバーのリベット孔とを一致させた状態でリベット16で両者を固定し、全体を一体化してエアバッグモジュール1を形成している。

【0004】この様に構成されたエアバッグモジュールにおいて、車両の衝突等によりガス発生器8が作動すると、多量の高圧ガスが急速にガス発生器8から噴出し、エアバッグ4が展開を開始する。このエアバッグの展開

に伴ってバッグカバー14の脆弱部6が開裂し、エアバッグ4は運転者とステアリングホイールとの間に展開し、運転者を衝突の衝撃から保護する。

【0005】上記のようなエアバッグモジュールの組立に際しては、エアバッグ4とガス発生器8とを固着した組立体に、バッグカバー14を被覆した後、リベット打ち工程に送り、エアバッグを押し縮めた状態でバッグカバー14の脚片部22とリテーナ2の縦壁部12とをリベット打ちするため、押し縮めたエアバッグから反発力を受け、バッグカバー14から手を離すと、バッグカバーが浮き上がる様にしてリテーナ2から離反してしまう。このため、バッグカバーの被覆工程から送られてきたものをリベット打ちするには、再度バッグカバー14をリテーナに押しかぶせる作業が必要であり、作業効率が低いという問題があった。

【0006】その対策として、図9及び図10に示す様に、リテーナ2には、その縦壁部12に舌片部32を先端部に向かって下り勾配となる様に切り起して形成し、バッグカバー14には、その脚片部22に、上記舌片部32が入り込む大きさで且つ前記舌片部32の勾配と同様の下り勾配とした開口31を形成する事によって、その組立時には、バッグカバー14の脚片部22をリテーナ2の上方からリテーナの舌片部32に抗して押し下げると、図10(a)に示す様に、樹脂製で弾性力のあるバッグカバー14の脚片部22は外側に拡開され、リテーナ2の舌片部32がバッグカバーの開口31に嵌入すると、図10(b)に示す様に、前記脚片部22は元の状態に復帰し、前記舌片部32は抜け止めされて両者は一体化して仮止めする。この仮止め状態で、リテーナ2の縦壁部12に形成したリベット孔30とバッグカバー14の脚片部22のリベット孔との位置が一致する様になっている。この状態でリベット打ち工程に送り、リテーナ2とバッグカバー14とをリベット打ちして固定する方法が提案されている(特公平6-94267号公報参照)。

【0007】この固定方法によると、バッグカバー14がリテーナ2に強固に係合される事により、このエアバッグの折り畳み工程からリベット打ち工程に送る間にバッグカバーが外れなくなると共に、リベット打ち工程においては、新たにバッグカバーを押し込んだりする必要はなく、そのままリベット打ち装置にセットしてリベットを打つ事ができる様になる。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記の様に、リテーナ2とバッグカバー14とを仮止めしてリベット打ちする方法においては、リベット打ち工程そのものは存在するため、エアバッグモジュールの組立工程の簡略化及びコスト低減の観点からは、極めて不十分と言わざるを得ない。

【0009】更に、リテーナ2の縦壁部12に切り起こ

して舌片部32を形成するには、各縦壁部毎に作業を分割してプレスによって切り起こしを形成しなければならず、多くの作業工数を必要とする欠点があった。又、バッグカバー14における上記舌片部32が嵌入する開口31は、舌片部32の勾配と同様の勾配に形成しなければならず、合成樹脂製のバッグカバーを射出成形で形成する際には、この下り勾配を有する開口の成形には、複雑なピンの配置と離型のための複雑な型構造が要求され、金型製作費が高くなる欠点があり、又、射出成形後にこの開口を成形するにも多くの手数を必要とする等の欠点があった。

【0010】又、エアバッグ展開時には、バッグカバーの脚片部はバッグの膨張力によって外側に広がる強い力を受けるので、リベットの止め具合が悪い場合には、前記舌片部32が、バッグカバーの前記開口31から外れ、バッグカバー自体が吹き飛ばされるおそれも有していた。

【0011】従って、本発明は、上記事実に鑑み、リテーナにバッグカバーを固定するに当り、容易に且つ確実に両者の固定を行う事ができ、更に、エアバッグ展開時のバッグカバーのリテーナからの離脱を完全に防止できる簡単な手段を提供することを目的とするものである。

【0012】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記の課題を解決するためになされたものであって、その特徴とするところは、エアバッグとガス発生器とを装着した矩形のリテーナにバッグカバーを固着してなるエアバッグモジュールにおいて、前記リテーナは、中央にガス発生器取付孔を有する底板部と各辺部の縦壁部とを有し、且つ該縦壁部又は底板部に夫々外側に突出した突起片が形成されており、前記バッグカバーには裏面側に前記リテーナの縦壁部を囲繞する様に脚片部が形成され、該脚片部の前記リテーナの前記突起片に対応する位置に、該突起片が挿入されてリテーナを係止する係止孔が形成されており、更に、前記リテーナの底板部の各コーナー部には、前記バッグカバーの脚片部の下端面に当接して該下端面を支持する支持片が形成されているものである。係る構成により、バッグカバーをリテーナの前記突起片と支持片によって支持固定する様にしてなるものであり、特に、前記リテーナとバッグカバーとは、リベットを用いることなく前記突起片と前記支持片のみによって係止されている点に大きな特徴を有するものである。

【0013】尚、前記突起片は、前記バッグカバーをリテーナに係止する水平平板部と、その先端に形成され且つ前記係止孔から突出して前記水平平板部よりも広幅の先端部とからなる略丁字形状に形成する事により、エアバッグ展開時に前記バッグカバーの脚部が外側に膨張するのを抑止する様になしている。

【0014】更に、前記バッグカバーの脚片部に形成された係止孔は、前記突起片の広幅先端部の幅よりも僅か

に広幅の大開口部と、これに連続して前記突起片の広幅先端部の幅よりも狭く且つ水平平板部よりは若干幅広の小開口部とからなる凸字状をしており、前記突起片の水平平板部で、前記バッグカバーの係止孔の小開口部に係止し、前記広幅の先端部は前記係止孔から突出してエアバッグ展開時に外側からバッグカバーの脚部の膨張を規制する様になす事もできる。

【0015】又、前記リテーナの縦壁部に形成された突起片の形状を、水平平板部と、その先端に形成された該平板部から屈曲して設けられた先端部とで構成し、前記水平平板部でバッグカバーの前記係止孔に係止し、前記屈曲して形成された先端部は前記係止孔から突出してエアバッグ展開時に外側からバッグカバーの脚部の膨張を規制する様になし事もできる。

【0016】その他、突起片の形成位置は、前記リテーナの底板部としたもの、又は、前記リテーナの縦壁部の先端部に形成してなるもの等種々の態様があるが、いずれの場合にも、該リテーナの対向する辺の同一箇所に形成されている事が好ましい。

【0017】更に又、前記バッグカバーの同一脚片部に複数の係止孔を形成する場合には、該係止孔の各位置の該脚片部における上下方向の高さを異ならしめ、エアバッグ展開時の該脚片部に作用する応力が、同一平面に集中しない様にするのが好ましい。

【0018】本発明は上記の様に構成しているので、エアバッグを折り畳んだ状態で固定したリテーナに、その上方からバッグカバーを装着するに際し、リテーナの縦壁部をバッグカバーの脚片部が囲繞する様に装入すると、リテーナの縦壁部に設けた突起片がバッグカバーの脚片部に案内され、そのとき脚片部を外方に押圧して脚片部を開き、突起片が係止孔に嵌合してバッグカバーとリテーナとを固着すると共に、リテーナのコーナー部に形成されている支持片で、バッグカバーの脚片部の下端を位置決めして支持するので、バッグカバーはリベットを用いる事なく、バッグカバーをリテーナに強固に固定保持させる事ができる。

【0019】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の実施例を図面に沿って説明する。図1は本発明のエアバッグモジュール1の背面図、図2は図1の底面図、図3は図1の右側面図、図4は図1のA-A断面図である。図1～4において、リテーナ2の底板部3には、その中央部の開孔内にガス発生器8を装入し、該ガス発生器8のフランジ10と前記底板部3とを、4本のボルト11によって固着している。折り畳まれたエアバッグ4の開孔周縁部は、リテーナ2の底板部3とリテーナリング5に挟持されて前記ボルト11によってリテーナ2に固着されている。

【0020】リテーナ2は、略矩形をしており、底板部3と該底板部3の4辺に垂直に立設した4つの縦壁部12とからなり、図1における上下部には、底板部3に連

接して夫々2つの突起片13が設けられ、左右の縦壁部12の端部には、夫々1つの突起片13が設けられており、これらの各突起片13は、水平平板部13aと、その先端に連接して該水平平板部13aよりも広幅の先端部13bとからなる略T字形状をしている。又、該リテーナ2の4つのコーナー部には、後述する様にバッグカバーの脚片部22の下端面25に当接する支持片24が、夫々形成されている。係る形状をなすリテーナ2は、鉄板から上記形状が得られるような所定形状に打ち抜き、これをプレスにより一部を絞りつつ縦壁部12を形成し、同時に縦壁部12の縁部に突設した状態で形成されている突起片13を外方に折り曲げて形成する。

【0021】これらの各突起片13は、後述するバッグカバー14の脚片部22に形成されている係止孔15内に挿入されて、バッグカバー14をリテーナ2に係止すると共に、エアバッグ展開時には、バッグカバー14の脚片部22がエアバッグ4の展開力によって外側に広がるのを防止する役割を果たしている。

【0022】バッグカバー14は、前面カバー部21と、その裏面に前記リテーナ2の縦壁部12の外周を囲繞する様に形成された4つの脚片部22とを有し、該脚片部22の前記リテーナ2の突起片13に対応する位置に、夫々突起片13と係合する大きさの係止孔15が形成されている。この係止孔15は、前記突起片13の先端部13bが挿入できる程度の大開口部15bと、これに統いて前記突起片13の水平平板部13aが挿入できる程度の小開口部15aとからなる略T字形状の開孔となっている。係る構造のバッグカバー14は、可撓性を有する合成樹脂からなり、射出成形により成形されるが、上記係止孔15は脚片部22に対して直角に形成されているので、射出成形時の中子の組み込み及びその取り外しを簡単な構成により行うことができる。

【0023】係る構造のリテーナとバッグカバーの組み立てに際しては、従来通りリテーナ2にエアバッグ4とガス発生器8とをボルト11によって固定した後、エアバッグ4を所定の形状に折り畳み、統いてこれをバッグカバー14の脚片部22内のエアバッグ収納空間内に収納する様にバッグカバーを装着する。この際に、バッグカバー14は弹性を有する合成樹脂で形成されているので、リテーナ2に形成されている前記突起片13でバッグカバー14の脚片部22を外側に押し広げる様にしてバッグカバー14を押し下げ、前記リテーナの突起片13の広幅の先端部13bが、前記脚片部22の開孔15の大開孔部15bの位置に至ると、突起片13は、脚部22の復元弾性力によって該大開孔部15bに挿入される。この状態でバッグカバー14の押し下げ動作を終了すると、折り畳まれ且つバッグカバーを介して押圧されているエアバッグ4の復元力によってバッグカバー14は押し上げられ、突起片13の水平平板部13aが、前記係止孔15の小開孔部15aに移動し、これによって

バッグカバー14とリテナ2とが係止される事になる。

【0024】一方、このバッグカバー押し下げ工程において、リテナ2の4つのコーナー部に形成されている前記支持片24も、図5(a)に示している様に、バッグカバー14の脚片部22の内側まで入り込むが、前記突起片先端部13bが係止孔15の大開孔部15bに嵌入した後にバッグカバー14が押し上げられると、図5(b)に示されている様に、バッグカバーの脚片部22は弾性力によって復元し、その端面25が前記支持片24の内側に入ると、該脚片部22の復元動作は終了し、該端面25は、支持片24によって位置決めされた状態となる。この様にバッグカバーをリテナに押しつける操作のみによって、両者は容易に固定する事ができる。

【0025】尚、前述の通り、突起片13は、平板状の水平部13aと、これよりも広幅の先端部13bとからなっており、同時にバッグカバーの脚部22の係止孔15の形状も、バッグカバーに対し上部には大開口部15bが、下部には小開口部15aが形成された凸字状の段付き開口となしている。これにより突起片13の広幅先端部13bを大開口部15bに挿通し、折り畳まれたエアバッグの復元力によって水平部13aを小開口部15aに移動させて、バッグカバーをリテナに保持させ、同時に、突起片13の先端広幅部13bは、前記脚片部22の外面に略当接した状態となっている。この結果、バッグカバーとリテナの係止部は、突起片13の先端広幅部13bが、狭幅の小開口部15aから突出した形となっているので、エアバッグ展開時に、バッグカバーが外側に広がろうとする力を、該広幅先端部13bがバッグカバーの脚片部22の外側から押さえる役割を果たす事になり、バッグカバーがリテナから離脱するのを防止する様になっている。

【0026】上記実施例においては、リテナ2の突起片13は、図1の上下の辺には各2個形成し、左右の辺には各1個形成されているが、これは4辺共に、各1個或いは各2個又は3個形成しても良いが、1つの辺に1個の突起片を形成する場合には、複数個形成する場合に比べて、広幅の突起片となす必要がある。又、1つの辺に複数の突起片を形成する場合には、各突起片の高さ方向の位置を異ならしめる事により、これを係止するバッグカバー14の脚片部22の係止孔15の高さ方向の位置を異ならしめ、エアバッグ展開時の脚片部22に作用する応力が、同一平面に集中しない様にするのが好ましい。

【0027】又、図示の例では、上下の辺の突起片はリテナ2の底板部3から突出させ、左右の辺の突起片は、リテナの縦壁部12の端部に形成しているが、これは4辺共に底板部3から突出させてもよく、又、4辺共に縦壁部12の端部から突出させても良い。

【0028】次に、図6は、リテナ2とバッグカバー

14との係止部に係る本発明の他の例を示すものであって、同図(a)に示す様に、リテナ2の縦壁部12の端部から突出して形成される突起片13を、縦壁部12から直角に延びる水平平板部13aと、その先端の鍵型に屈曲させた先端部13cとで構成し、バッグカバーの脚片部22の先端部には、リテナを案内するためのテーパー65を形成したものであり、脚片部22の係止孔15の形状は矩形をしている。バッグカバー14をリテナ2に係止する場合には、前述の場合と同様に上方からバッグカバー14を押し下げると、脚片部22の先端部の形成されているテーパー部65によって、突起片13を係止孔15に案内挿入し、突起片13の先端部13cを脚片部22の係止孔15から突出させる。挿入後バッグカバーの押圧力を開放すると図6(b)に示す様に、折り畳まれたエアバッグの復元力によって、前記屈曲した鍵型の先端部13cと縦壁部12とでバッグカバーの脚片部22を挟持する様にして係合している。この場合も前述の場合と同様に先端部13cがバッグカバーの脚片部22を外側から規制しているので、エアバッグ展開時にバッグカバーがリテナから離脱するのを防止する事ができる。

【0029】次に、図7は、本発明において使用するバッグカバーの他の例を示すもので、同図において、バッグカバー14の脚片部22には、略T字形状の2つの係止孔15が、高さの違う位置に形成されている。この係止孔15の配置される高さを異ならしめるのは、開口部である係止孔15の近傍は、応力集中が生じる脆弱な部分であるので、その部分が同一線上に存在すると、エアバッグ展開時に、この線上で破断するおそれがあるためである。従って、図7の如く係止孔15の高さを異ならしめておけば、応力集中面が分散するので、エアバッグ展開時にバッグカバーの脚片部が破断するのを防止する事ができる。

【0030】尚、上記実施例においては、リテナの底板部を略正方形に形成しているが、例えば台形等の各種四角形、あるいはその隅に大きな曲線部を形成し、或いは隅部に適宜の直線上の辺を形成した多角形等、ステアリングホイールの形状と要求されるデザイン性に応じて適宜の形状のものを採用することができる。

【0031】

【発明の効果】以上説明した様に、本発明は、リテナに固定されたエアバッグを折り畳んだ状態で、容易に且つ確実にエアバッグの上方からバッグカバーをリテナに係止する事ができ、リベット打ちを不要としているので、エアバッグモジュール組立工程が大幅に簡略化され、製作コスト低減に大きく寄与する事が期待される。又、リテナに形成した突起片の先端部が、バッグカバーの脚片部を外側から規制する構造となっているので、エアバッグ展開時に生じるバッグカバーの外側への膨張を規制してバッグカバーがリテナから離脱するのを防

止することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るエアバッグモジュールの背面図である。

【図2】図1の底面図である。

【図3】図1の右側面図である。

【図4】図1のA-A断面図である。

【図5】本発明に係るリテーナによってバッグカバーを支持する状態を示す概念図であり、(a)はバッグカバーをリテーナに装着中の状態を示し、(b)は装着後の状態を示す。

【図6】本発明に係るリテーナとバッグカバーの係止状態の他の実施例を示す概念図であり、(a)は突起片を脚部の係合孔に挿通する前の状態を示し、(b)は突起片を脚部の係合孔に挿通した後の状態を示す。

【図7】本発明に係る他の実施例で使用するバッグカバーの側面図である。

【図8】従来のエアバッグモジュールの断面図である。

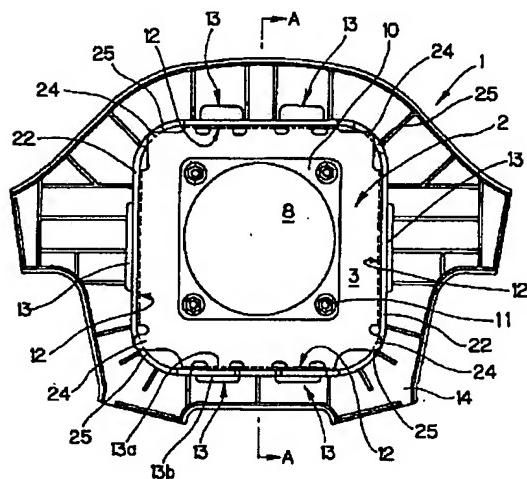
【図9】従来のリテーナの斜視図である。

【図10】従来のリテーナとバッグカバーを係止する状態の要部概念図であり、(a)は係止直前の状態を示し、(b)は係止後の状態を示す。

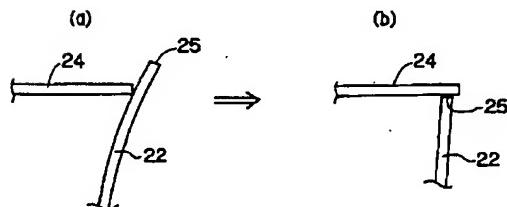
【符号の説明】

- 1 エアバッグモジュール
- 2 リテーナ
- 3 リテーナの底板部
- 4 エアバッグ
- 5 リテーナリング
- 6 リテーナの脆弱部(破断溝)
- 8 ガス発生器
- 10 ガス発生器のフランジ
- 11 ボルト
- 12 リテーナの縦壁部
- 13 リテーナの突起片
- 13a 同突起片の水平平板部
- 13b 同突起片の先端広幅部
- 14 バッグカバー
- 15 バッグカバーの係止孔
- 15a 同係止孔の小開孔部
- 15b 同係止孔の大開孔部
- 22 バッグカバーの脚片部
- 24 リテーナのコーナー部の支持片
- 25 バッグカバーの脚片部の端面

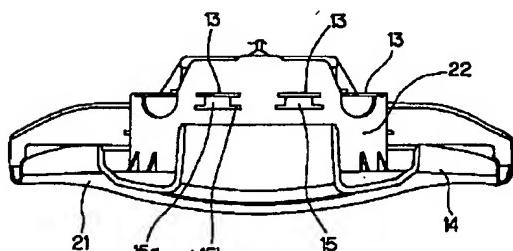
【図1】



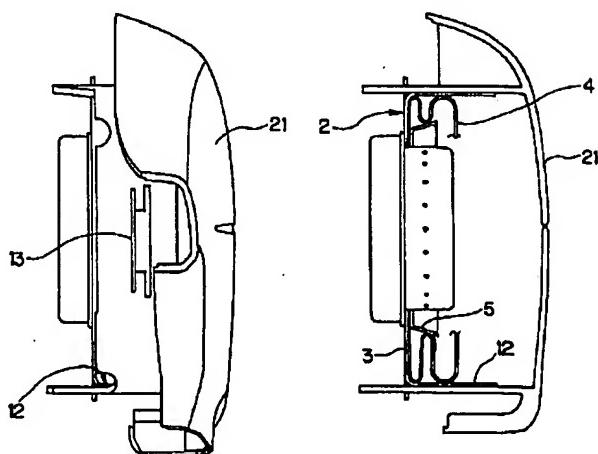
【図5】



【図2】

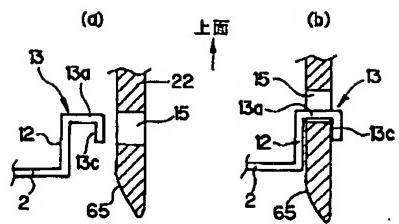


【図3】

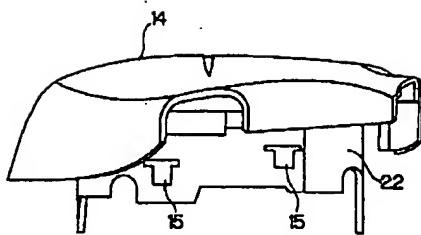


【図4】

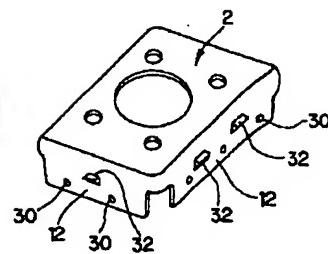
【図6】



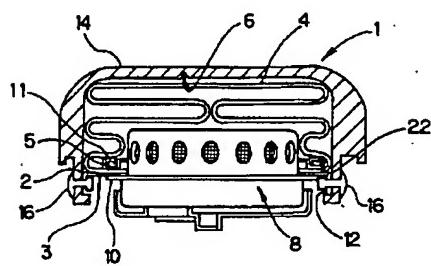
【図7】



【図9】



【図8】



【図10】

